富山高等専門学校		開講年度	開講年度 令和04年度 (2022年度)		授業科目	環日本海諸国語VIB(ロシア語)					
科目基础	楚情報										
科目番号		0114			科目区分	一般 / i					
授業形態		授業			単位の種別と単位						
開設学科		国際ビ	 ジネス学科		対象学年	3					
加設」「「 開設期		後期	2 1 2 () 1 1		週時間数	4					
加以初 教科書/教											
<u>段14音/多</u> 担当教員	X1/2]	山本有									
			1布								
2)学習し: 3)学習し:	までの学習 た文法事項 た文法事項	夏を用いて、 夏を用いて、	認し、確実に身につ 自分のことを説明で ロシア語で質問に答 な事象を説明できる	きる。 えることができる。							
ルーブ!	リック										
			理想的な到達レ	·ベルの目安(優)	標準的な到達レ/	べルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)	可)			
				(/	名詞、形容詞の材						
評価項目1			、話法などの文	名詞、形容詞の格変化、動詞の体 、話法などの文法事項を活用した 文章表現がスムーズにできる。		まります。 表事項を活用した る。	、話法などの文法事項を 文章表現ができない。	活用した			
			形容詞の格変化 法などの文法事 表現がスムーズ	、関係代名詞、話 項を活用した口頭 にできる。	形容詞の格変化、関係代名詞、話 法などの文法事項を活用した口頭 表現ができる。		形容詞の格変化、関係代名詞、 法などの文法事項を活用した口! 表現ができない。				
評価項目3			ペアワークやグ	ループワークにお 表現を考え、発表	ペアワークやグルカして表現を考え ができる。	レープワークで! え、発表するこ _で	る ペアワークやグループワイン かして表現を考え、発表ができない。	ークで協 すること			
 学科の ³	到達日煙				1.5 5 5 5 5		1.5 2 2 3 5 5				
教育方法		· <u> </u>	22 IAI)								
以日刀艺	公 守	/ p +==	 と概要)								
既要		1)ロシ	ア語初級文法の完成を	(要) 音初級文法の完成を目指す Eには60点以上が必要である							
受業の進む	め方・方法	ま 事前に	独による講義および活行う準備学習:講義の 学習・事前:授業内	の復習および予習を	行ってから授業に と。	塩むこと。					
注意点		評価が 者にあ 【備考	っては、その評価を6 】 3回で欠課1時間とす	50点とする。 る			試験の結果、単位の修得が認	ぬられた			
受業の原	属性・履 ティブラー	評価が 者にあ 【備考 1)遅刻 2)授業 3)定期	60点に満たない者は っては、その評価を6 】 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 試験(中間試験及び	50点とする。 る		、小テストなど	試験の結果、単位の修得が認)を30点として評価する				
授業の原図 アクテ	ティブラー	評価が 者にあ 【備考 1)遅刻 2)授業 3)定期	60点に満たない者は っては、その評価を6 】 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 試験(中間試験及び 分	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題	、小テストなど)を30点として評価する				
受業の原図 アクテ	ティブラー	評価が 者にあ 【備考 1)遅刻 2)授業 3)定期	60点に満たない者は っては、その評価を6 】 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 試験(中間試験及び 分	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題	、小テストなど)を30点として評価する				
受業の原	ティブラー	評価が 者にあ 【備考 1)遅刻 2)授業 3)定期	60点に満たない者は っては、その評価を6 】 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 試験(中間試験及び 分	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題 図 遠隔授業対応	、小テストなど)を30点として評価する □ 実務経験のある教員				
受業の原	ティブラー	評価が 者にある 【偏遅刻 1)授定期 3)定期 二ング	60点に満たない者はっては、その評価を6 3 回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 試験(中間試験及び 分	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題 図 遠隔授業対応	、小テストなど)を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標				
受業の原	ティブラー	評価があまります。 1) 選	60点に満たない者はっては、その評価を61 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 試験(中間試験及び 分 図 ICT 利用 授業内容 第7課	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題 図 遠隔授業対応	、小テストなど)を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習				
受業の原	ティブラー	評価があまる。	60点に満たない者はっては、その評価を6 1 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 試験(中間試験及び) 分	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題 図 遠隔授業対応	、小テストなど 過ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習				
受業の原	ティブラー	評者(情報) 1) 1 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	60点に満たない者はっては、その評価を6 1 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 試験(中間試験及び 分	50点とする。 る	ごとがある その他(発表、課題) 図 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する				
受業の原	ティブラー	評者 【1) (1) (1) (1) (1) (2) (3) (2) (3) (4) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	60点に満たない者はっては、その評価を6 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 対験(中間試験及び 分 ② ICT 利用 授業内容 第7課 第7課 第8課 第8課 第8課	50点とする。 る	ごとがある その他(発表、課題 図 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 無人称文の用法	○ 定30点として評価する□ 実務経験のある教員標復習を修得するを修得する				
受業の原図 アクテ	ティブラー:	評価があまります。 評価に備を表する。 1)の区では、 1)の区では、 1)のでは、 1 のでは、 1 ので	60点に満たない者はっては、その評価を6 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 対験(中間試験及び 分 ② ICT 利用 授業内容 第7課 第7課 第8課 第8課 第8課 第9課	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題 図 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 無人称文の用法 複数生格の用法	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する				
受業の原	ティブラー:	評者(「加があ考刻業期 1)2)2)3)2 3)2)2 3)2 3)2 3)3 3 3 3 3 3 3 3	60点に満たない者はつては、その評価を63 3回で欠課1時間とす計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 対数(中間試験及び) 分	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題 ② 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法	を30点として評価する□ 実務経験のある教員標復習を修得するを修得するを修得するを修得するを修得する				
受業の原図 アクテ	ティブラー:	評者 (1) 選別 (1) 選別	60点に満たない者はっては、その評価を6 1 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 対験(中間試験及び 分	50点とする。 る	ことがあるその他(発表、課題) 図 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法	かを30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する				
受業の原図 アクテ	ティブラー:	評者(「加があ考刻業期 1)2)2)3)2 3)2)2 3)2 3)2 3)3 3 3 3 3 3 3 3	60点に満たない者はつては、その評価を63 3回で欠課1時間とす計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 対数(中間試験及び) 分	50点とする。 る	ことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 腹習事項のまと 既習事項の確認	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する かを行う を行う				
受業の原図を受験できます。	ティブラー:	評者 (1) 選別 (1) 選別	60点に満たない者はっては、その評価を6 1 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 対験(中間試験及び 分	50点とする。 る	ことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	過ごとの到達目前期学習事項の前期学習事項の無人称文の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法と数当事項の確認式の過少ではある。	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する とが得する				
受業の原 2 アクラ 受業計画	ティブラー:	評者 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	60点に満たない者はつては、その評価を67 3回で欠課1時間とす計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 分 図 ICT 利用 授業内容 第7課 第7課 第8課 第8課 第9課 第9課 学習事項のまとめ 中間試験 1)答案返却 2)第10課	50点とする。 る	ことがある その他(発表、課題 ② 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 と、既習事項の確認 既習事項の確認 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する とを修得する とがである とができる				
受業の原 ② アクラ 受業計画	ティブラー:	Part	60点に満たない者はつては、その評価を67 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 分 図 ICT 利用 授業内容 第7課 第7課 第8課 第8課 第9課 学習事項のまとめ 中間試験 1)答案返却 2)第10課 第10課	50点とする。 る	ことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する とを修得する とがでいる。 とができます。				
受業の原 2 アクラ 受業計画	画 3rdQ	Part	60点に満たない者は 60点に満たない番を 1 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 計画、評価方法及び 分	50点とする。 る	でとがあるその他(発表、課題) 図 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する とを修得する とを修得する とを修得する とを修得する までがでする とをでいる とをでいる とをでいる とをでいる とをでいる とびない。 とない。 とない。 とない。 とない。 とない。 とない。 とない。 と				
受業の原 2 アクラ 受業計画	ティブラー:	「本 12 12 12 12 13 14 14 14 14 14 14 14	60点に満たない者は つては、その評価を6 1 3回で欠課1時間とす 計画、評価方法及び 分	50点とする。 る	でことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 2)試験評の確認 2)試験評の体の所 食及び健康に関す 身体状態に関す	を30点として評価する □ 実務経験のある教員 標 復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する とを修得する とを修得する あを行う とび解説 記述を修得する する表現を修得する る表現を修得する る表現を修得する る表現を修得する				
受業の原 ② アクラ 受業計画	画 3rdQ	Part	60点に満たない者は 60点に満たない番を 7 計画、で欠課1時間とす 計画、中間試験(中間試験及び) 分	50点とする。 る	ことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	週ごとの到達目前期学習事項の前期学習事項の無人称文の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法と吸習事項の延の確認到動詞のが関係で関連のが関係に関する表質を表	を30点として評価する				
受業の原 ② アクラ 受業計画	画 3rdQ	Part	60点に満たない者は 60点に満たない者は 7 のでは、その評価を6 7 計画、評価方法及び 分	50点とする。 る	ことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	週ごとの到達目前期学習事項の前期学習事項の無人称文の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の明法的別談人類等項の返師の所以の過過である。 別談人類の表述では、 の別述のでは、 の別述のでは、 の別述のでは、 の別述のでは、 の別述のでは、 ののに、 ののに、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	を30点として評価する				
	画 3rdQ	Part	60点に満たない者は 60点に満たない番を 1 3回で欠課1時間とす 計画、中間試験及び 分	50点とする。 る	ことがあるその他(発表、課題) 図 遠隔授業対応	、小テストなど 週ごとの到達目 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 と別談議詞の確の別 会及び態に関する 身体状態に関する 健康習事項の確認 現習事項のの の の の の の の の の の の の の の の の の の の	を30点として評価する				
受業の原図を受験できます。	画 3rdQ	Part	60点に満たない者は 60点に満たない者は 7 のでは、その評価を6 7 計画、評価方法及び 分	50点とする。 る	ことがあるその他(発表、課題) 図 遠隔授業対応	週ごとの到達目前期学習事項の前期学習事項の無人称文の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の用法複数生格の明法的別談人類等項の返師の所以の過過である。 別談人類の表述では、 の別述のでは、 の別述のでは、 の別述のでは、 の別述のでは、 の別述のでは、 ののに、 ののに、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	を30点として評価する 実務経験のある教員 実務経験のある教員 標復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する を行う を打かく を修得する である表現を修得する である表現を修得する である表現を修得する である表現を修得する である で				
授業の原 ファクラ 授業計画 後期	画 3rdQ 4thQ	「作品 12 12 12 12 13 14 15 16 16 17 16 17 17 17 17	60点に満たない者は 60点に満たない番を 60点に満たない価を 60点に満たない価を 60点に満たない価を 60点に満たない画を 7日間に満たない 60点に満たない画を 7日間に対します。 60点に満たない画を 7日間に対します。 第1日間に対します。 第2間に対します。 第3間に対します。 第4間に対します。 第5回に対します。 第1の課 第1の課 第1の課 第1の課 第11課 第12記 第12記 812 812 812 812 812 812 812 812	50点とする。 る 評価項目(は変更する 期末試験)を70点、	ことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格のの用法 複数事項の延価の用 別試験詞の評体の用 身体状態関する表 との習事項のを認 りはでしている。 はこれでは はこれでは はこれでは はこれで はこれで はこれで はこれで は	を30点として評価する	による授			
受業の原 アクラー 受業計画 数期	画 3rdQ 4thQ	Part	60点に満たない者は 60点に満たない番を6 7 3回で欠課1時間とす 計画、中間試験(中間試験及び) 分	50点とする。 る。 評価項目は変更する 明末試験)を70点、	ことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格のの用法 複数事項の延価の用 別試験詞の評体の用 身体状態関する表 との習事項のを認 りはでしている。 はこれでは はこれでは はこれでは はこれで はこれで はこれで はこれで は	を30点として評価する 実務経験のある教員 実務経験のある教員 標復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する を修得する を行う を打かく を修得する である表現を修得する である表現を修得する である表現を修得する である表現を修得する である で	による授			
受業の原 アクラー 受業計画 対 対	画 3rdQ 4thQ	Part	60点に満たない者は 3回で欠課1時間とす 計画、(中間試験) (中間試験) (中間	50点とする。 る 評価項目(は変更する 明末試験)を70点、 を 目標 学習内容の到達目	でことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	週ごとの到達目 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格のの用用法 複数生格項のの確認 到事項の評価のの は試験調ののででは 3) 動及び態態に関する は、といる と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、	を30点として評価する 実務経験のある教員 実務経験のある教員 標復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する あを行う を行う よび 表現を修得する る表現を修得する る表現を修得する る表現を修得する る表現を修得する しまして しまして	による授			
授業の原図アクラ	画 3rdQ 4thQ	「作品 12 12 12 12 13 14 15 16 16 17 16 17 17 17 17	60点に満たない者は 60点に満たない番を 60点に満たない価を 60点に満たない価を 60点に満たない価を 60点に満たない画を 7日間に満たない 60点に満たない画を 7日間に対します。 60点に満たない画を 7日間に対します。 第1日間に対します。 第2間に対します。 第3間に対します。 第4間に対します。 第5回に対します。 第1の課 第1の課 第1の課 第1の課 第11課 第12記 第12記 812 812 812 812 812 812 812 812	50点とする。 る 評価項目(は変更する 期末試験)を70点、	ことがあるその他(発表、課題) ② 遠隔授業対応	週ごとの到達目 前期学習事項の 前期学習事項の 無人称文の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格の用法 複数生格のの用法 複数事項の延価の用 別試験詞の評体の用 身体状態関する表 との習事項のを認 りはでしている。 はこれでは はこれでは はこれでは はこれで はこれで はこれで はこれで は	を30点として評価する 実務経験のある教員 実務経験のある教員 標復習 復習 を修得する を修得する を修得する を修得する あを行う を行う よび 表現を修得する る表現を修得する る表現を修得する る表現を修得する る表現を修得する しまして しまして	による授			

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0